

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

## 後志管内 小樽市立塩谷小学校

### 本実践のポイント（概要）

- ・ふるさと塩谷や北海道に対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、塩谷や忍路、伊達市の縄文遺跡を見学したり縄文の紋様や勾玉づくりを体験したりし、縄文人の暮らしについて調べるとともに、専門家を外部講師として招聘した授業等を通して、北海道の縄文人の暮らしについて探究的に学習しました。

### ふるさと教育・観光教育の実践内容

#### 単元の目標

北海道の縄文人の暮らしについて、実際に地元の遺跡群等を見学したり縄文の紋様や勾玉づくりを体験したりし、専門家を外部講師として招聘した講話等を通して、北海道の縄文人の暮らしについて理解するとともに、当時の環境と衣食住などを関連付けながら環境に適応してきた人々の生活の知恵について考え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

#### 取組の様子

##### (1) 課題の設定

地域にある「ほっけま遺跡」や「忍路遺跡群」の見学をきっかけに、北海道における縄文時代の人々の暮らしについて話し合い、興味・関心を高め、一人一人が課題を設定しました。

##### (2) 情報の収集

「北海道ふるさと教育指導プログラム」や遺跡の見学、外部講師の講話等を通して、各自で詳しく調べたいことについて情報を収集しました。

##### (3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理・分析するとともに、同じ課題を設定した児童同士で交流し、地元である塩谷と他の北海道の縄文遺跡、当時の環境と衣食住などを関連付けながら、環境に適応してきた人々の営みを想像するなど、ふるさとについて理解を深めました。

##### (4) まとめ・表現

児童は、調べたことをまとめたスライドを使用して発表し合うことを通して、北海道の縄文人の暮らしについて理解するとともに、現在の自らの生活について考え、関心を高めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・遺跡見学等において、興味をもったことや気付いたことについて、小樽市総合博物館館長及び学芸員を交えて対話しながら、一人一人の関心に応じた課題を設定しました。
- ・1人1台端末を活用し、興味のある遺跡等を体験できるVRツアーを実施したり、共同編集機能により、同じ課題を設定した児童同士で交流・協議したりできる場を位置付けるほか、他学年の児童や保護者に対し、成果物を校内の展示スペースに展示しました。



【ほっけま遺跡見学の様子】



【北小金貝塚見学の様子】



【1人1台端末を活用した発表の様子】

### 実践の振り返り

- ・小樽市総合博物館の館長及び学芸員などの専門家の講話や遺跡の見学を通して、地元の塩谷遺跡は住宅街の地下に眠っており、庭を掘ると土器が見つかることなどを知り、児童は、当時の環境や道具、衣食住など自分たちの町に対する興味・関心を高めるとともに、愛着や誇りを育むことができました。
- ・各教科等横断的に、ふるさと教育を位置付けることにより、ふるさとへの愛着や誇りを一層育めることが期待できます。